

社会福祉法人 北海道家庭学校



〈礼拝堂〉

北海道紋別郡遠軽町留岡34番地

☎ (0158) 42-2546

FAX (0158) 42-8040

E-mail kateigakkou@bz04.plala.or.jp

創 設

明治32年、東京府巢鴨村に家庭学校を創設された留岡幸助先生は、事業の一層の展開を図って、大正3年、北海道上湧別村社名淵に、国有林1,000町歩の払下げを受け、その分校を開設されました。50町歩は150名を収容する感化事業にあて、750町歩を150戸の小作農家に分けて感化事業を支え、200町歩は薪炭用の共有林とし、理想の新農村建設のため、先生は生涯の大事業に着手されました。

小作地は後に解放され、校有地は439町歩となりましたが、壮大な校祖の理想を継承して、私たちは施設の経営と地域の社会活動をその使命と考え、また、独立した近隣の農家も、その地名を留岡と改めて、校祖との深いゆかりを今日に伝えております。

沿 革

大正3年 北海道上湧別村社名淵に分校と農場を開設

大正4年 本地方で初めてホルスタイン種乳牛2頭を導入

大正5年 白滝上支湧別に第二農場を開設

大正8年 望の岡に礼拝堂を建立

大正11年 恵の谷に約1町歩の水田を作り、稲作に成功

大正12年 北海道代用感化院となる

昭和5年 社名淵産業組合を結成、地域産業の振興をはかる

昭和8年 牧野虎次 第2代校長に就任

昭和9年 少年教護法施行され北海道庁認可少年教護院となる

昭和14年 今井新太郎 第3代校長に就任

女子部を設置（女子部は昭和21年に閉鎖）

昭和23年 児童福祉法施行され教護院として認可を受ける

昭和24年 留岡清男 第4代校長に就任

昭和35年 収容定員を85名とし認可を受ける

昭和43年 社会福祉法人北海道家庭学校の許可を受け、東京家庭学校より分離独立する

昭和44年 谷 昌恒 第5代校長に就任

平成9年 小田島好信 第6代校長に就任

平成10年 児童福祉法改正され児童自立支援施設となる

平成21年 加藤正男 第7代校長に就任

公教育導入により、遠軽町立東小学校・遠軽中学校の望の岡分校となる。

平成24年 熱田洋子 第8代校長に就任

平成26年 仁原正幹 第9代校長に就任

留岡先生の胸像は本館の前庭にあり、その台座の裏面には次のように記されています。

留岡幸助先生は、明治27年監獄改良事業を勉強する目的をもって、アメリカ合衆国に留学、エルマイラ感化監獄に起居し、勤続52年の典獄ブロックウェーに師事す。ブロックウェーに座右銘あり。

” this one thing I do ” 先生はこれを邦語に翻訳して、「一路到白頭」となし、永く自戒の指針とす。正面の5字は大正12年の自筆。一日庵は雅号、「一日の苦勞は一日にて足れり」の意。



本校のほぼ中央に聳える平和山の山頂に、留岡幸助先生の遺髪を納めた記念碑が建てられています。碑には先生の遺詠

眠るべきところはいつこ平和山
興突海(オホーツク海)を前に眺めて

が刻まれています。毎月5日、私たちは先生の命日を憶えて、この平和山に登り、記念碑の前で、しばし黙想の時をすごします。

北方はるか、直線距離にして約20キロ、湧別の山なみの向こうに、オホーツクの海を望むことができます。

昭和53年、私たちは校祖の碑の脇に、清男先生の記念碑を建てました。

碑には先生が愛誦された

経営漫費人間力
大業全依造化効

を刻んでおります。句は蘭学者前野良澤の語。今日の管理社会の弊を戒め、固く天地自然の力に依拠して、偉大な事業を達成すべきことを教えております。



交通

飛行機 女満別空港より車で約1時間45分

女満別空港より北見駅までバスで50分

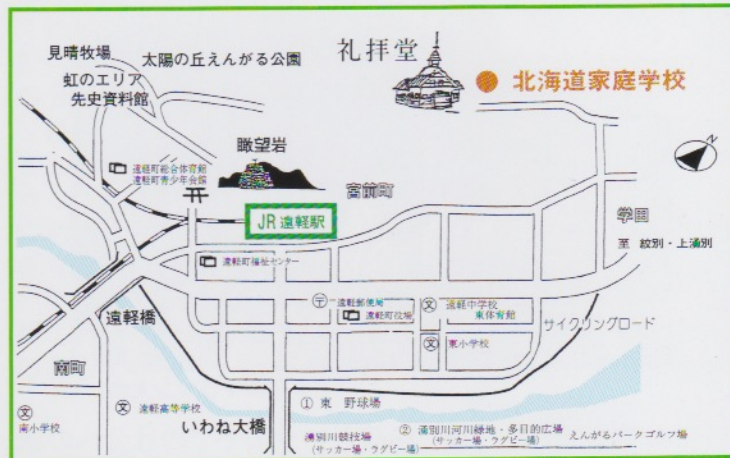
JR石北線北見駅より遠軽駅まで特急1時間

紋別空港より車で約1時間

旭川空港より車で約2時間30分

JR 北海道石北線「遠軽駅」下車5Km、タクシー7分

道路案内



〈北海道家庭学校校門〉

入 校

しばしば手紙や電話で子どもを預ってほしいと頼まれることがあるのですが、そうした相談は各地にある児童相談所の業務です。本校の生活が本人の将来のため最も望ましいという児童相談所の判定があれば、私たちは少年を引取り、その指導にあたります。私たちにとっては、形にあらわれた非行は問題ではありません。何故、そのようなことをしたのか、せずにはいらなかったのか。その少年たちの内側の心が問題なのです。私たちは少年の訴えに静かに耳を傾け、社会や大人に対するその深い不信を取り除きたいと願っています。かつて、突き刺すような目に取り囲まれていた少年たちは、虚勢をはり、大いに悪ぶっていました。入校後、少年たちの表情はなごみ、次第に童心を取り戻します。そこから、一步一步、少年の確実な成長を期待して、本校でのさまざまな生活は始まるのです



〈本館 学習の場〉

生 活

本校は広大な敷地と豊かな自然に恵まれております。教育には自然が必要なのです。自然は生命に満ち溢れています。子どもはその生命に触れ、多くのものを学ぶのです。自然に親しむことによって、人間は変わります。

本校には7つの寮舎があります。それぞれの寮舎は、少年たちと起居寝食を共にする寮長夫婦によって運営されています。家庭学校はこの夫婦制の寮舎に、暖かい家庭的配慮と、濃やかな愛情を一ぱいに盛りたいと思うのです。真実の愛を受けて、人間は変わるのです。

平成21年度から公教育の導入により、望の岡分校となり、分校の先生と家庭学校の職員と一体となって学習や作業班学習に力を入れています。

家庭学校には閉ざされた門や扉、格子はありません。生徒は囲われて育つのではなく、愛情によって職員と結

ばれるのです。愛こそが、生徒たちをここにとどまらせる強いきずとなるのです。



〈向陽寮 高校生が生活する場〉

本校の広い土俵の土で、職員と少年たちとが一体となって繰り広げる生産活動は、そ菜、山林、園芸、酪農、校内管理部（塗装、味噌づくり、寮内ポスター等）多くの分野にわたっています。

自ら汗して働くことによって、少年たちは仕事の大切さと、喜びと、きびしさとをつぶさに学びます。野球、サッカー、バスケット、合気道、卓球、美術の各クラブの活動も年々盛んになってきました。健康な生活は人間を変えるのです。

年間の計画にもとづいて行なわれる各種の行事は、本校における四季それぞれの思い出を、限りなく豊かなものとしています。毎月行なわれる朗読会で、少年たちは



〈牛舎 酪農部〉

ここでの生活を綴って、思い思いの感想を述べます。ほとんどすべての作文に、これらの行事の喜びと感激が記されています。

起床6時、就寝9時、日曜日の礼拝。少年たちはそうした生活の明け暮れの中で、目に見えないものに対する畏敬の心に触れるのです。生活が少年たちを変える。私たちはそのように願い、少年たちとの生活を心から大切にしたいと思うのです。

卒業

本校の定員は85名。年間出入りする少年はそれぞれ30名前後。約2年で全員が入れ替ることになります。しかし、小学校4年で入校する少年もいれば、中卒の有職少年が入校することもあり、一人一人の在校期間はおのずから長短があります。義務教育年齢の少年は、在籍する中小学校が、その少年の復学を認めない限り、本校を卒業する訳にはいきません。いきおい、義務教育を終了する年齢になってから、その進路を開拓するということになりがちです。就職と地元での高校あるいは職業訓練校への進学の外、本校から高校に進学することを希望する少年もふえてきました。



〈6月のマラソン大会〉

それにしても、15歳、16歳という弱年での社会への立ちです。以後、暫くは迷いもあり、躓きもあります。きびしい現代の世情を考え、繁栄の世の中の高い消費水準を思うと、少年たちの前途の容易でないことを、深い嘆息と共に思いやるのです。

私たちは少なくとも予後10年の間、しっかりと少年たちの歩みを見守りたいと固く心に期し、それを私たちの仕事の一部と覚悟しているのです。

北海道家庭学校校歌

作詞 三輪源造

- 一 我ら朝毎 鋤を取りて
荒れ野を畑に 石地を田に
五穀実らせ 木の実成らせ
神の御跡を そこに訪ねん
- 二 我ら鉞 鑿を取りて
木をば切り割り 石をば割り
家を造り 橋をも架け
神の御跡を そこに訪ねん
- 三 我ら夜毎に 文を取りて
天の真も 地の掟も
人の歴史も 学び究め
神の御跡を そこに訪ねん
- 四 我ら聖の 跡を踏まば
匠の技も 学びの道
耕す技も 嬉しきかな
神の御技を 身に現さん

行事

4月	新学期開始、復活祭、 グランド開き	10月	サッカー大会、園遊会、 研修旅行、校内マラソン
5月	憲法記念日、花見、 体力測定、愛鳥週間、 サッカー大会、校長杯球技大会	11月	収穫感謝祭、 作業班発表、 バスケットボール大会
6月	サッカー大会、運動会、 校内マラソン	12月	第二学期終了、クリスマス、 木彫コンクール、餅つき、 歳末祈禱会、正月帰省
7月	第一学期終了、炊事遠足、 海水浴、ソフトボール大会	1月	新年の式、第三学期開始、 スキー教室
8月	物故者慰霊祭、相撲大会、 夏季一時帰省、第二学期開始、 木彫コンクール	2月	節分、平和山初登山、スキー大会、 雪像コンクール
9月	創立記念日、体力測定、 ソフトボール大会、登山	3月	中小学校卒業証書授与、 第三学期終了、春帰省

施設 土地 439ヘクタール(130万坪)
建物 礼拝堂、本館、体育館、特別教室棟
寮舎、博物館、給食棟、木工教室
牛舎、バター製造舎、味噌醸造場
記念文庫、等
31棟 7,652平方メートル

校門から案内板まで約450メートル
案内板から本館まで約450メートル



〈鳥瞰図〉

役員	理事長 理事	永井 信 家村 昭 坂本 矩 太田 満 佐藤 充 仁原 子 遠山 京 正幹 正 博	森下 一彦 齋藤 義信 佐々木 雅昭 熱田 洋子 枝松 邦幸
職員	校長 職員	仁原 正幹 26名(嘱託医3名を含む)	
生徒	入所定員 卒業生総数	85名 2,440名	

(平成26年4月1日現在)